

# かたちのデザイン

粘土で作った五重塔〜陶塔〜 【1】 みよし市立 歴史民俗資料館	注口土器 【6】 西尾市 岩瀬文庫
弥生人のすかた 人面付土器 【2】 愛知県 陶磁美術館	邪を祓う！百皿の鬼瓦 【7】 幸田町 郷土資料館
大きなかたちと小さなかたち 【3】 瀬戸蔵 ミュージアム	文字を書くためには… 一月田遺跡出土の円面硯— 【8】 蒲郡市 博物館
とよたの多彩なやきものたち —ころも焼を中心に— 【4】 豊田市 郷土資料館	羊型硯 —三河国府跡— 【9】 豊川市 三河天平の里 資料館
しもぶくれがカワイイ 古井式土器 【5】 安城市 埋蔵文化財センター	鬼瓦の文字〜『水』と『丸』〜 【10】 知多市 歴史民俗博物館
武徳殿の鬼瓦 【11】 豊橋市 美術博物館 (土偶をつくろう)	



# もようのデザイン

常滑の井戸筒 【12】 とこなめ 陶の森 資料館	堅雄堂宝珠瓦 —水野家紋入り— 【17】 東浦町 郷土資料館 (うのはな館)
紅葉文甕 【13】 田原市 博物館	素朴な縞模様が美しい 麦藁手飯椀 【18】 豊田市 民芸館
均整唐草文軒平瓦 【14】 半田市立 博物館	素弁六弁蓮華文軒丸瓦 【19】 西尾市 資料館
鹿を描いた弥生土器 【15】 東海市立 平洲記念館 郷土資料館	縄文土器 —間瀬口遺跡 B— 【20】 知立市 歴史民俗資料館
大倉和親の別荘と洋食器生産 大倉陶園「ブルーローズ」 【16】 大府市 歴史民俗資料館	瓜郷遺跡出土の弥生土器 【21】 豊橋市 二川宿本陣資料館 (土偶をつくろう)

記念品交換チェック欄

- ○ ○ 3館賞 ※3つまで  
ありがとうございます
- デザイン賞 ※おつかれまでございます  
○ かたち ※どちらかひとつ
- パーフェクト賞  
心から、感謝申し上げます

むかし  
5000  
縄  
2500  
文  
1000  
500  
400代  
300  
200  
100  
↑紀元前  
0  
↓紀元後  
時  
代  
100  
200  
300  
400  
500  
600代  
700  
800  
900  
1000時  
1100代  
1200  
1300  
1400  
1500  
1600  
1700  
1800  
1900  
2000  
いま

**縄文時代のやきもの**  
縄文時代には各地で地域色豊かな縄文土器が作られ、他の地域の土器の形や作り方に影響を与えていました。愛知県がある東海地方は、東は関東地方、西は関西地方、北は中部地方と北陸地方に接しているため、これらの地方の影響を受けた土器が多く見られます。縄文時代の東海地方では、日本列島各地の文化が行き交っていたことがわかります。

**弥生時代のやきもの**  
紀元前4〜3世紀（一説には紀元前10世紀）ころ、大陸から北部九州にコメ作りが伝わりました。これにより、日本は食物を獲る時代から作る時代へと変化しました。土器も、たくわえるための壺や炊く甕が多く作られ、他にも盛り付ける高坏や鉢が使われるようになりました。

**古墳時代のやきもの**  
弥生土器を引き継ぐ土師器と、新たに朝鮮半島から技術が伝わった須恵器があります。土師器は各地で作られますが、須恵器はより高い温度で焼くための窯が必要で、製作地は限られます。新来の須恵器は様々な形を生み出し、装飾豊かなものも多くあります。古墳に並べられる埴輪は、筒形の他、家形や動物形、人形等が作られました。

**古代のやきもの**  
古墳時代に伝わった須恵器は、その後もたくさん作られ、奈良時代になると愛知県は猿投窯をはじめとする、やきもの一大生産地となりました。さらに平安時代になると、淡緑色をした緑釉陶器や灰釉陶器といった高級な陶器を作るようになります。これらの陶器は、当時の都をはじめ全国各地に運ばれていきました。

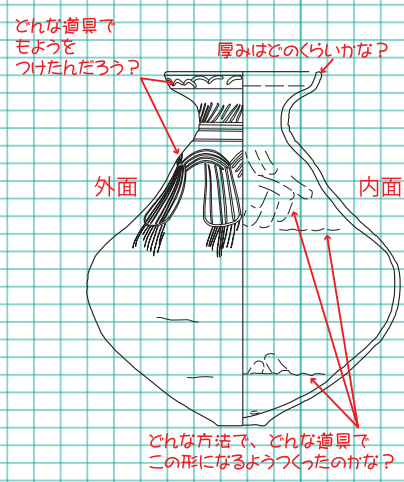
**中世のやきもの**  
平安時代後期から東海地方の各地で山茶碗の生産が行われました。鎌倉時代になると、山茶碗の生産をベースとして瀬戸窯で施釉陶器、常滑・渥美窯で壺・甕・鉢を主体とした焼締陶器の生産が開始されます。特に、瀬戸窯は国内で唯一の施釉陶器を生産した窯として有名で、常滑窯とともに中世を通して生産が行われていきました。

**近世のやきもの**  
中世に引き続き、瀬戸窯・常滑窯が大きな産地です。瀬戸窯では筆で絵の描かれたやきものが盛んに作られますが、19世紀にはそれまでの陶器に加えて九州から磁器作りが伝わります。常滑窯では甕等の大物が主力ですが、19世紀には急須や茶道具等も作られ始めました。他に名古屋等、各地で様々なやきもの産地が生まれました。

**近代のやきもの**  
明治時代以降、海外への輸出用陶磁器生産が大きく進展していきます。それと共に西洋からの新技術の導入、生産工程の工業化、鉄道網の整備や名古屋港の開港、貿易商社の集結といった、やきもの生産・流通・販売などの各方面で近代化されていきました。その一方で、陶芸という美術工芸の分野が芽生え、発展していきました。

- memo -

愛  
知  
や  
き  
も  
の  
ヒ  
ス  
ト  
リ  
ー



たとえば…弥生土器の実測図